

第33回夏季大学「新しい気象学」開講のお知らせ ～台風の理解はどこまで進んだか～

教育と普及委員会

主催：日本気象学会

後援：気象庁，日本地学教育学会，

(財)日本気象協会，(財)気象業務支援センター

●この講座は最新の気象学の普及を目指して，毎年開催しています。小・中・高校の理科担当の先生方の他に，気象学に興味をお持ちの学生や一般の方を対象にカリキュラムを組んでいます。

今回は，「台風」をテーマに取り上げます。台風は我が国に大きな災害を引き起こす一方，近年慢性的に起こる水不足を一気に解消するほどの降水をもたらします。講義では，最新の観測技術や数値シミュレーションによる研究成果を紹介するとともに，防災の観点から見た台風についても解説します。

受講料：一般5,500円，教員5,000円，気象学会員・日本地学教育学会員・学生4,500円(消費税含む)

日時：平成11年8月2日(月)(9時30分受付開始)から8月4日(水)までの3日間

会場：東京都文京区本郷7-3-1

東京大学本郷キャンパス内
東京大学山上会館

(次ページの地図を参照して下さい)

●往復はがきの往信に以下の必要事項を，復信には宛先を記入してお申し込みください。受付次第，復信にて受講の可否をお知らせします。

1 「夏季大学参加希望」

2 住所・氏名

3 職業

(該当する方は「気象学会員番号」または「地学教育学会員番号」を，あわせて記入願います)

4 連絡先電話番号

5 テキストの送付先

(住所と同じ場合は省略して構いません)

申込先：〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4
気象庁内 日本気象学会事務局

申込締切：平成11年7月13日(火)必着

ただし，定員(約100名)に達しましたら締め切らせて頂きます。

受講料支払方法：復信受け取り後，郵便振替によりお支払いください。テキストをお送りします。口座番号等は復信によりお知らせいたします。

その他：一日目の講義終了後に受講者と講師の懇親会を開く予定です。

●テキストのみ希望される方は，はがきに必要部数を書いてお申し込み下さい。テキストと振替用紙をお送りします。代金は1部1,000円と送料(実費)です。発行部数が少ないので早めにお申し込み下さい。

●会場への交通

地下鉄丸の内線

本郷三丁目駅下車徒歩10分

地下鉄南北線

東大前駅下車徒歩10分

地下鉄千代田線

湯島駅または根津駅下車いずれも徒歩10分

都バス東大構内行き

上野浅草口，お茶の水聖橋口：東大病院前下車

都バス荒川土手行き

東京駅丸の内北口：東大正門前下車

都バス駒込駅行き

東京駅八重洲口：東大正門前下車

●お問い合わせ先

気象庁内 日本気象学会事務局

Tel. 03-3212-8341 (内線2546)

Fax. 03-3216-4401

第33回夏季大学「新しい気象学」～台風の理解はどこまで進んだか～ 講義時間表

	10:30～12:00	13:30～15:00	15:15～16:45
8月2日 月曜日	台風入門 村松 照男 (気象庁予報課) 激しい風をもたらす台風を水蒸気エンジン付き巨大給水車として、そのしくみを述べる。次に台風の進路予報、情報の見方、読み方を解説し、台風予報最前線の話をする。台風による記録など興味深い現象についても話す。	気象画像による台風解析 三河 哲也 (気象衛星センター解析課) 地上観測データの少ない洋上の台風解析には、衛星画像の利用が不可欠である。衛星センターにおける台風の中心位置決定や強度推定の手法を、パソコン上で実際の衛星画像を使って紹介する。	台風の理論 山岬 正紀 (東京大学地球惑星物理) 台風(熱帯低気圧)は、熱帯大気中で積乱雲が集団をなすことによってできる強い渦である。台風の発生、発達、構造のメカニズムについて、理論的及びモデルを用いた数値実験から得られていることをもとに解説する。
8月3日 火曜日	台風の観測 榊原 均 (気象研究所台風研究部) レーダー及び航空機による観測を中心に、台風の観測方法、現業観測及び研究観測からわかる台風の特徴、および最近の台風の観測例を紹介する。	台風の数値予報 永田 雅 (気象庁太平洋台風センター) 台風の数値予報はどこまで進んでいるのか? 基礎から始めて、実例を交えながら現在の予測性能を紹介するとともに、将来の方向を展望する。	台風による高潮の実態とその予測 小西 達男 (気象庁海洋課) 伊勢湾台風をはじめ台風災害の中でも過去に大きな被害をもたらしてきた高潮について、近年発生した高潮事例からその実態、発生機構、予測技術の現状等を解説する。
8月4日 水曜日	台風災害史 饒村 曜 (気象庁企画課) 台風災害は、生活様式の変化や防災対策の進捗でどんどん変化しており、台風の不意打ちがなくなった現在でも昔とは違う災害が発生している。そこで、台風災害の歴史を人間生活の面から説明し、今後の防災対策を考える。	14:00～15:30 施設見学 気象庁(予定) 希望者を対象(定員30名)として、気象庁本庁の施設見学を行います。	

東京大学山上会館案内図

